

平成 22 年度「森林生態系保全再生」及び「ニホンジカ個体群保護管理」

事業概要

1. 森林生態系保全再生に係る取り組みについて

(1) トウヒ苗木植栽試験の実施

- ・現在苗畑で育成している苗木を東大台のミヤコザサ草原に植栽する。場所及び方法について検討し、計画を立案した上で実施する。

⇒資料 2-1

- ・植栽のうち 100 本程度の苗木を上北山村の小中学生による植栽イベントとして実施する。

⇒資料 2-2

(2) 大規模ササ刈り試験の実施

東大台正木峠周辺及び西大台三津河落周辺の森林後退部分において、1 区画 1 ha 程度の試験区を 2 区画設定し、9 月にササ刈り（機械刈り）を実施した。

また、刈り取り前を含め 11 月末までに 3 回程度、各区画 3 ヶ所程度でミヤコザサの回復程度などのモニタリングを実施し、ミヤコザサ管理のための基礎データを得る。

⇒資料 2-3

(3) 平成 23 年度防鹿柵設置箇所の検討

「大台ヶ原自然再生推進計画（第 2 期）」に基づき、平成 23 年度の防鹿柵設置箇所を検討した。

⇒資料 2-4

(4) 単木保護対策

「大台ヶ原自然再生推進計画（第 2 期）」に基づき、平成 23 年度の剥皮防止用ネットの施工箇所を検討する。特に剥皮防止用金属製ネットから剥皮防止用非金属製ネットへの切り替えについての検討を行った。

⇒資料 2-5

(5) 既存自生稚樹の確認

8 月に東大台の正木峠付近の防鹿柵内およびその周辺に生育するトウヒ、ウラジロモミ等の自生稚樹の確認調査を実施した。

⇒資料 2-6

(6) 動物モニタリング調査：植生タイプ別調査

昆虫類等調査（食材性昆虫類）を、植生タイプ別対照区の柵内外 14 ヶ所で、6 月から 10 月の間の月 1 回、2 昼夜の間、カイロモン（誘因剤）を利用したトラップによる調査を実施した。

⇒資料 2-7

(7) 動物モニタリング調査：地域特性把握調査

主にヤマネを対象とする樹上性小型哺乳類調査とコウモリ類を対象にした調査を実施した。前回の平成 16 年度調査と同手法で調査を実施し、比較を行う。

⇒資料 2-8

植生タイプ別調査時などに発見された、昆虫類の希少種・固有種・指標種等を記録した。また、指標種としてハバチ類等の調査を実施した。

⇒資料 2-9

2. ニホンジカ個体群保護管理に係る取り組みについて

(1) 個体数調整実施状況

- ・くくりわな、装薬銃、アルパインキャプチャー、麻酔銃のそれぞれでニホンジカの個体数調整を実施中。今年度の捕獲目標頭数は70頭。

⇒資料 3-1

- ・今年度の今後の計画。くくりわな、装薬銃による個体数調整を進める予定。

⇒資料 3-2

(2) モニタリング調査実施状況

- ・GPS首輪による個体移動状況調査を実施。GPSテレメトリーを装着した個体についての移動と大台ヶ原の利用状況についての解析を実施。また、平成21年度装着個体のデータの回収と解析を実施した。また今年度新たな個体にGPSテレメトリーを装着した。

⇒資料 3-3

- ・生息密度調査の実施。今年度の実施計画。ルートセンサス、糞粒法、区画法を実施予定。

⇒資料 3-4

- ・他機関の取り組みとして、林野庁の事例を紹介。

⇒資料 3-5